

「心と体の健康」

～心は健全ですか？～

I コリント 6: 11、19～20

教会は一切のものを一切のもので満たすお方の満ちているところです。私達が教会に与えてくださった恵みを持って帰らないと全くその宝は意味がない。ですから、一人一人がその宝を持って帰る様にしましょう。神様は、いつも神の摂理の中であなたにしか任さない、あなたにしか委ねることができない神の計画をお持ちです。あなたのうちに約束をかなえる事ができる方です。その約束を掴み、その約束をかなえる力があなたの只中にある教会に満ちています。

■ 弱さとは何なのか？

この世の中で戦っている人たちは自分の弱さを何とか見ないようにして、自分をカモフラージュして生きようとしています。弱さとは、何なのか？それは、自らで自らを救うことができない弱さ。神様は私たちを完璧なものとして造りましたが、どうということなのでしょう。御言葉をみていきましょう。自らの内側に置かれた器官が絶えず良い状態であるということ。ですが、私たちの今の現状はそうではない。あなたがたの中のある人達は以前はそのような者でした。しかし、主イエス、キリストの御名と私達の神の御霊によって、あなた方は洗われ、聖なるものとされ、義と認められたのです。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないことを知らないのですか。あなたはたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分の体をもって、神の栄光を現しなさい。(コリント 1 6: 11、19～20) 神様はあなたの体を代価をもって買い取られました。何の為ですか？それは私達が私達の体、心、霊を自らの思う様にコントロールできなくなったからです。あなたが魂に幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように祈ります。(ヨハネ 3: 2) 私たちの神様は、あなたがこの事になる様に願っています。クリスチャンの義務とは何ですか？それは、幸いであることです。ついで神は仰せられた。「見よ。わたしは、全地の上であって、種を持つすべての草と、種を持って実を結ぶすべての木をあなた方に与えた。それがあなた方の食物となる(創世記 1: 29) 彼らは、種や実を食べていました。この時代に必要だったのはエネルギーでした。なぜでしょうか？細胞が死ななかつたからです。神様は、私たちが造られたとき細胞が死ぬものとして造らなかつたのです。完全で、死なない体。しかし人間が罪をおかし、人の齡は千年ぐらいいになりました。土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならぬ。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにあなたは土に帰る。あなたはそこからとれたのだから。あなたはちりだから、ちりにかえらなければならぬ。(創世記 3: 18～19) 聖書に書いてあるように外から入ってくる食べ物体がけがすのではありません。この御言葉をみると、「野の草」を食べていたことがわかり、「肉」は出てきません。そう考えるとまだ人間の体は力のある肉などを食べなくてもなんとかなっていたのかもしれないことが推測できます。汗をながして人は糧を得なければならなくなつたため、ここで葉を食べさせるようになりました。ミネラルを取らなければいけなくなつたのです。生きて動いているものはみな、あなたがたの食物である。緑の草と同じように、すべてのものをあなたがたに与えた。(創世記 9: 3) 人の罪が増大していった私たちの細胞が自らで回復できなくなつて命を食べないと生きられなくなりました。草だけではなく、すべてのものに変化しています。これが聖書が伝える今の人間の姿です。その時から人間は百二十歳までしか生きられなくなりました。人はこのころから制御不能となりました。自己中心の中心は他の命を殺してでも生きるといふ信念に変わりました。神様はあなたの体を神の宮として教会としてあなたの、心と体を保てと言つたのです。霊的な解放だけでは、変わりません。心と体を保つ

ことはあなたに任せられているのです。

■ あなたの心の回復

あなたはなぜ、教会にきているのですか？何のために礼拝に？なぜ祈るのですか？一つ目は、教会に来る最初の目的はあなたが何者かを知ること。二つ目は、愛されているということを知ること。三つ目は、愛されたあなたが神様になぜ造られたのか知ること。それを知つたあなたはどう生きるか考えるという事で、それは夢ができるという事です。そして夢ができたあなたはどうすればその夢がかなうか考えます。だから、礼拝にくるのです。神様はあなたをルールづけにしたいのではありません。自らを目的のために生かす。しかし、目的のためではなく何かが起きたからなにかをするようになっていきます。教会に来る最大の目的は心の回復で元気になること。私たちはそれぞれ置かれた環境が違います。置かれた場所で咲くように神様がそれぞれ違う種としてあなたを育てました。種が発芽するためには、水につけとかなければいけません。この水につけるといのが回復です。休んでいた命がもう一度命に変わろうとするいぶきを得る時です。私たちは自らを保つためにはあなたがちゃんと咲いていないといけません。そこで害があった時に負けないようにならないといけません。だから教会に来て神様の愛を受けてエネルギーをうけそして、そこで負けざる力を受けるのです。だから礼拝に来るのです。あなたがあなたでいるためです。

■ 別人に注意

私たちの心の中には別人が潜むのです。あなたじゃないあなたが存在するのです。冷めた人、冷酷な人。いつの日か別人はあなたになります。あなたの中にいる無法者を放っておかないでください。教会はこの隠しているものを出す為にあるのです。世の中では出せないような姿です。まず神様の前で隠すのはご法度。隠して明るみに出されないものは何一つありません。その暗闇に光をあてるためにイエス様は来られたのです。神様の前に心を開いてください。人間には、肉体、感情、いのちがあります。霊、魂、肉ということです。その魂には知識、意志、感情というものがあります。知識の部分で傷ついたので、命のいのちに影響が及ぶ、これが怖いことです。まず神様の前に出るとこのいのちの傷がいやされます。霊的な回復がこの部分です。そして、兄弟姉妹と分かち合いながら、神様の前に祈ります。これが記憶の回復です。ですから、教会ではありのままを出すのです。そこから成長していくと教会でできなくても神様にいつも祈って出すことができるようになるのです。

■ 生活の回復

教会で本音が出せ、あなたの心がだせるようになったら癒されていきます。ですから、教会に来てうそをつかない、隠さないようにしましょう。神様の計画は大きいのです。ですから私たちは生活をきちんと良い状態にしていなないとあなたがあなたでいられなくなります。神様の力と神様の与えてくれた食べ物の力で私たちは変えられていきます。この両面があなたの生活をかえてくれます。心の回復と体の回復が成された時に初めてクリスチャンは本当のクリスチャンになるのです。今日、決意しましょう、あなたの生活を大切にすることを。自分の生活を大事にしてください。

(要約者:小根久保 麻由美)

(4月10日)